

たすけあい名古屋

通信第116号

マイナンバーって

いよいよマイナンバー制度が実施されることになります。これをお読みになる頃には、役所からの通知がお手元に届いていると思います。

マイナンバーは、日本に住んで住民登録した人が、年齢、国籍にかかわらず付与されることになり、一生に一度貰うもので、親に貰った名前を変えることはできるのですが、このマイナンバーは変更することができません。すでにアメリカでは社会保障番号があり、ソーシャルセキュリティナンバー（SSN）と呼ばれ、運転免許証にも表記されています。



マイナンバーは、別名で「社会保障・税番号」として始まったそうですが、「社会保障・税番号」と名称にあるように、社会保障、年金、介護保険、免許証、将来的には銀行口座等とのひも付きも計画されているとのことです。自分の財産が番号で一括管理されてしまうと云うのはあまりうれしくはありませんが、私たちにとってどのような良いことがあるのでしょうか？

個人の所得とか貯蓄とかが把握しやすくなるため、確定申告等の手続きが簡単になり、また、情報の抜けがなくなるので、公平な扱いが期待できます。お役所へ出向いて、住民票、戸籍謄本の取得、年金・社会保険の手続き、児童手当の申請等、生活の為の手続きが簡単、迅速になることが期待されます。

将来的には、医療情報を例にとれば、複数のお医者さんに掛かっていると、診察券はもとよりカルテ情報、投薬情報等もお医者さん毎にバラバラですが、マイナンバーで一括管理ができるようになると、薬の飲み合わせとか、無駄な薬の処方とかを防ぐことができるようになります。

便利になると云うことはその反面、番号の管理、個人情報の漏洩等の心配事も多くあります。情報化社会での情報の漏えいは、社会制度の根幹を揺るがす問題になります。重要な個人情報を管理するためにも、不必要にマイナンバーを知らない人に漏らさないように注意することが必要です。

マイナンバー設定に伴い、来年1月から介護保険の申請書類などに、マイナンバー記入欄が設けられることになりました。その折にはマイナンバーを照会させて頂くことになりますので、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。「たすけあい名古屋」はマイナンバーを取り扱う専用のパソコンを新規に設置し、情報管理に万全の注意をはらいます。

(代表 西川 達夫)

利用者さんの玉手箱☆…「たすけあい名古屋」をご利用くださっている

ご利用者のコーナーです。利用者さんにも通信に参加して頂くため、俳句、和歌、詩、短編小説、また「たすけあい名古屋」に対するご意見ご要望などご紹介していきます。

藤本さんは、以前「たすけあい名古屋の暮らし助け合い（有償ボランティア）」の担い手として活動されていました。現在は介護みどりのヘルパー支援をご利用になっています。

「原子爆弾の被爆から70年」

藤 本 功

私の故郷は徳島ですが、戦争で九州より関西に石炭の輸送が船では出来なくなり、鉄道での輸送で蒸気機関車の乗務員が急に必要になりました。四国から転勤する者の募集があり、まだ私は独り者だったので、希望して広島の機関区に行き、勤務していました。

被爆の当日は早朝2時まで勤務し、機関区近くの宿舎で同僚2人と3人で寝ていました。ほかの2人は先に起きて一階にいましたが、私は寝るのが遅かったため、まだ一人で二階の窓際で、夏のことなので上半身裸で寝ていました。気が付いた時には、窓際で背中を窓の方向に向け、頭を両手で抱えて布団の上で座って伏せていました。窓ガラスが破損し散らばって居り、頭と背中の3ヶ所の小さい傷は、ガラスの破片による傷と思われました。背中がヒリヒリと少し痛みを感じ、服を着ると痛みがより強いので、同僚に見てもらうと火傷で赤くなっていると言われました。火の気もないのにと不思議に思いました。あとで考えると、この時被爆したのだとわかりました。

そのうちに、火傷や外傷して破れた服を着た状態で街の方向から逃げて来る人達があり、付近の家は爆心地の反対方向に傾き、方々で火災が発生していました。宿舎も傾き使用できる状態ではなかったから、畳と布団を二階から下の近くの畳に運び一泊しました。

翌日に広島駅近くで脱線していたため1駅分を歩き、次の駅から列車に乗って叔母の家に行きました。近くの小学校で海軍が医療として来ていたのを知り、火傷や外傷の医療的処置をしてもらいました。

約一週間後に終戦となったので徳島に戻ってきました。徳島に戻ってから、急性肝炎や白血球の低下、腰椎ヘルニアの治療を受けました。

原子爆弾の被爆から70年になり被爆した生存者の人数も減少しているので、私の勘違いや忘れていることもあるかもしれません、被爆の体験を後世に伝えたいとの思いにより一筆書きました。



おひさまカフェだより

「おひさまカフェにて骨密度、体組成測定会がひらかれる」

9月23日（祝日）おひさまカフェで名市大生、名学院大生主催の骨密度・体組成測定会が実施され、18人の人々が真剣にかつ楽しく、自分の身体について知り、悲喜こもごもという状態でした。参加者の方の「体脂肪は予想通り多かったが、食事、運動などの改善策が分かってよかったです」、また「骨密度が低く食事の好き嫌いが多いためカルシウム不足と思っていたが食材を工夫して摂ると良いと言われ、やってみよう決心した」等の貴重な意見も出ました。

学生の個々の人への熱心な説明や、担任の先生の専門的なアドバイスも参加者の皆さんに好評でした。

（担当 吉葉 俊治）



測定会風景

平成27年度 名古屋市 高齢者日常生活支援研修



名古屋市の生活支援サービスの来年6月からの提供開始を控え、いよいよ担い手養成研修が始まりました。NPO法人なごや福祉ネットが名古屋市より受託し、来年3月までに合計12回の研修会を名古屋市内の色々な場所で開催します。全国に先駆けその第一回が10月11日・12日に南医療生協病院の部屋を借りて開催されました。今回は緑区と云うことで「たすけあい名古屋」が主担当として開催し、36名の受講生を対象に、講師と家事支援サービス場面のロールプレイ（役割演技）の名優？（ケアマネ、サ責）合わせ8名が「たすけあい名古屋」より参加しました。ミニワークショップ（グループワーク）においては受講者の方が非常に活発な討論を行い、活気のある研修会を行うことができました。生活支援サービスの充実には多くの担い手が必要です。ご友人やお知り合いの皆さん積極的な受講をご推奨下さい。



ロールプレイ風景

（代表 西川 達夫）

地域包括ケアシステムの構築

専門職が協働し、利用者の望む生活スタイルに合った在宅医療の姿を共通認識します。

- ✿ 第2回緑区在宅医療推進多職種連携研修会（在宅医療プロフェッショナル大作戦）8月23日 オレンジホームケアクリニックのスタッフが演じる認知症のある事例を通して、週末にも係わらず、緑市民病院の院長先生をはじめ総勢130人の支援スタッフがユメリアに集まり、看取りに至るまでのサポート体制を学びました。
- ✿ 第2回天白在宅医療・介護連携推進会議 9月5日 名誉会員の宮治 真 医師を中心に、医療連携をするため事例を通して、他の職種の理解を深めました。今後の在宅支援も、安心して医療が受けられるよう多職種連携に努めます。住み慣れた地域で「在宅で死ぬまで元気で」暮らせるように。

（管理者 ケアマネ 梅村 千春）

鳴子のおひさまだより（小規模多機能型居宅介護施設）

10月14日（水）、年に1回計画している「日帰り旅行」に行つきました。

目的地は知多半島。「美味しい魚を食べに行こう」が合言葉。朝から青空の上天気に恵まれて、ご利用者12名職員9名で出発しました。ちょうどお昼前に南知多のまるは食堂に到着。「大エビフライも食べちゃったよ」「私は煮つけがおいしかった」とみなさん大満足げでした。「海を何十年ぶりに見た」と晴れ晴れとした表情の方も。その後は、えびせんべいの里で顔より大きなえびせんべい焼き体験をして帰途につきました。皆さん最後まで笑顔が絶えませんでした。（管理者 坂倉 行人）



会食風景

障がい者総合支援だより



ミュージック・セラピー

「児童デイのん・たんと」では、7月から「ミュージック・セラピー」という音楽会イベントを、月に一度行っています。

ヤマハ音楽教室の講師もやっておられる田中陽恵先生をお招きして、歌を歌ったり、珍しい楽器や手作り太鼓を触ってみたり、歌の紙芝居を聞いたりして、楽しんでいます。

参加の仕方は子どもたちそれぞれで、楽器を持ってノリノリになる子や、音楽会の部屋には入れないが、漏れ聞こえてくる音に合わせて別室で踊っている子もいます。子どもたちの中にはイベントに参加することが苦手という子もあり、田中先生と一緒に、みんなが楽しめる会にするにはどうしたらいいのか、試行錯誤しながら会を作っています。（児童デイのん・たんと 小濱 麻美）

天白福祉会館だより

✿天白小学校3年生との2学期交流事業

天白福祉会館では10月15日(木) 絵手紙講座で、恒例の天白小学校3年生との2学期交流事業を実施しました。天白小の36名の生徒は、服部金子先生の「実物をよく見て、大きく書く、感じた言葉を書く」という指導の下、50分の時間内に絵手紙教室のご利用者30名と協力して作品を完成させました。(天白福祉会館 各務 芳春)



交流事業風景

デイサービス鳴子だより

間おみえになりました。いつものデイサービスの雰囲気とはちょっと違って、にぎやかな時間となりましたが、若くて活気のある学生さんとお話しされ、みなさん笑顔でした。

病院で診察を受け、薬局で薬をもらい、処方箋に書かれてある通りに薬を飲むという若い世代には簡単な出来事が、年を重ねるにつれ、簡単な出来事でなくなってしまいます。その実情を知った学生さんが、これから高齢者に優しい薬剤師として活躍してくれたらうれしいですね。

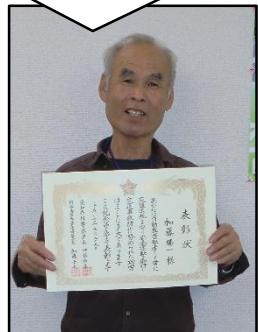
10月は、名市大薬学部の4年生、5年生の学生さんが、鳴子地区の介護施設の実習ということで6日

(管理者 須原 久美子)

優良自動車運転

たすけあい名古屋の皆さん指導のもとで感謝しております。これからも、ご利用者のために安全運転に努めますのでよろしくお願いします。

たすけあい名古屋の「デイサービス鳴子」送迎専任ドライバーとして活動されている加藤勝一さんが、交通安全協会緑支部長・緑安全運転管理協議会長・愛知県緑警察署長連名で優良運転者として表彰されました。加藤さんは平成21年12月に入職され5年を経過します。それまで大手運送会社で長年運転手として活躍され、その間に大型2種免許を取得し運転業務に専念して来られました。定年後ヘルパー2級の資格を取り、福祉関係で地域の為に貢献したいと強い熱意で当法人に来られました。加藤さんは毎朝就業1時間前に出勤し、車両の清掃からスタートします。ご利用者が気持ちよく乗って頂くことを大切に思い、日々清掃は欠かしません。その気持ちはご利用者にも伝わり、安心されていると思います。これからも今の気持ちを大切に、安全運転を継続されることを期待します。



(管理者 高橋増夫)

なるこふれあい祭り



各コーナーの様子



10月18日(日)10時から、たすけあい名古屋の「なるこふれあい祭り」を開催しました。当日は秋晴れの暑い一日でしたが、大勢の方に来て頂き大盛況でした。

当日の収益は、たすけあい名古屋の福祉活動に役立てて頂きます。ご協力、ご来場頂いた皆様、本当にありがとうございました。

(たすけあい名古屋 一同)

特定非営利活動法人(認定NPO法人) **たすけあい名古屋**

代表理事 西川 達夫

〒458-0041 名古屋市緑区鳴子町四丁目13番地 愛知県住宅供給公社鳴子第1住宅

TEL 052-899-0833 FAX 052-899-0800

Eメールアドレス: info@tasukeainagoya.com

